

海外自治体幹部交流協力セミナー2025(パリ事務所管内) 事 業 概 要

1 テーマ

インバウンド誘客促進を目的とした三豊市の観光戦略について

2 海外参加者数:3名

Marc KERMORVANT (マルク ケルモルヴァン) Colombes(コロンブ市)フランス Chargé de mission relations institutionnelles 対外関係担当部長
Laétitia KERBOUZ (レティシア ケルブー) Val-d'Oise(ヴァル=ドワーズ県)フランス Directrice générale du territoire et de l'habitat 領土・住居局長
David NEUPREZ (ダヴィド ヌプレ) Scharbeek(スカルベーク)ベルギー Directeur général 事務総長

3 日程[2025年10月19日(日)~25日(土)]

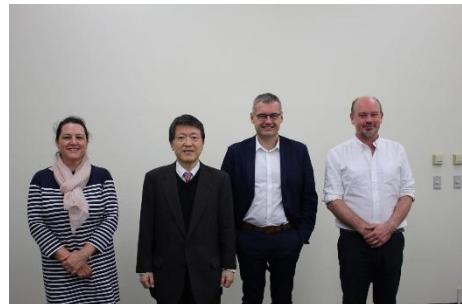
月日	予定	宿泊地
10/19(日)	来日、オリエンテーション	東京都
10/20(月)	<東京セミナー> 地方自治講義、視察、クレア主催歓迎夕食会	東京都
10/21(火)	<三豊市へ移動、地方交流事業> 表敬訪問、三豊市概要説明、視察、三豊市主催歓迎レセプション	三豊市
10/22(水)	<地方交流事業> 視察	三豊市
10/23(木)	<地方交流事業> 意見交換会、市民との交流会 <東京へ移動>	三豊市
10/24(金)	<東京セミナー> 視察	東京都
10/25(土)	帰国	

4 実施内容

《東京セミナー:10月20日(月)》

(1)日本の地方自治に関する講義(明治大学教授 木村俊介)

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科、木村俊介教授による日本の地方自治に関する講義を受講し、日本の地方自治制度に関する包括的な説明が行われた。この講義では、日本の地方自治体の役割と、国の政治・経済システムへの関わりなど、日本の社会基盤に対する認識を高めた。



(2)観光庁訪問・意見交換会

観光庁を訪問し、日本の観光の現状や観光戦略、さらに日仏間の交流について意見交換を行った。政府機関の担当者の方から具体的な政策についてお話を伺える貴重な機会となり、当日は活発な議論が展開された。



(3)東京都庁・都議会見学

日本の自治体および議会の現場を視察する機会として、東京都庁ならびに都議会を訪問した。都職員のご案内のもと、建物の概要説明に加え、職員数や予算規模など多岐にわたる事項について意見交換を行い、自国との相違点や共通点について理解を深めることができた。



(4)クレア主催歓迎夕食会

クレア主催による歓迎夕食会を開催し、参加者 3 名に加え、クレア本部からは常務理事およびクレアパリ事務所赴任予定者等が出席した。夕食会では、参加者の出身自治体に関することやセミナーテーマ等について忌憚のない意見交換を行い、今後のセミナーに向けて弾みをつける機会となった。



《地方セミナー(三豊市)10月21日(火)～10月23日(木)》

(1)本山寺視察

四国八十八ヶ所霊場第70番札所で、国宝の本堂や、国指定重要文化財の仁王門等を視察した。また住職より寺院の歴史的背景や文化的価値について説明を受けるとともに、地域における観光資源としての役割や、保存・活用の取り組みについて理解を深めた。



(2)市長表敬・三豊市概要説明

市役所入館時に三豊市職員より盛大な拍手をいただく歓迎を受け、山下市長を表敬訪問した。山下市長からは、日本語とフランス語を交えた歓迎の挨拶と記念品の贈呈後、三豊市の政策に関する説明を受けた。参加者は自国の政策や状況と比較しつつ、政策実施の経緯や具体的な取組について活発な議論を行い、三豊市の観光政策等に関する知見を深める有意義な機会となった。



(3)父母ヶ浜

国内外から高い評価を受ける父母ヶ浜の特徴や、地域振興における活用事例を学んだ。現地では、父母の会より、歴史的背景、景観保全の取組、観光客誘致に向けた施策等について説明を受けた。特に、地域住民との協働による環境保全活動など、持続可能な観光の実現に向けた具体的な取組を学ぶことができた。



(4)三豊市主催歓迎夕食会

参加者と市職員等が一堂に会して交流を深めた。当日は、地元食材を活かした料理が提供され、日本ならではの和食を体験する機会となった。参加者からは、温かい雰囲気の中で気軽に話し合うことができ、非常に有意義であったとの声が寄せられた。



(5)張り子の虎の絵付け体験

香川県の伝統工芸である張り子の虎の絵付け体験を実施した。本体験では、職人から張り子の歴史や製作工程に関する説明を受けた後、参加者がそれぞれ絵付けを行った。絵付け作業を通じて、日本の伝統文化に対する理解を深めるとともに、地域の工芸品が観光資源として果たす役割について学ぶ貴重な機会となった。また、参加者は、自らの創意工夫を凝らした作品を完成させた。



(6)仁尾酢工場

三豊市に所在する米酢「仁尾酢」醸造元、田野屋 中橋造酢株式会社を視察した。仁尾酢の歴史、製造過程、品質管理の取り組みについて詳細な説明を受けた。特に、酢の製造過程については、原料や発酵・熟成に至るまでの工程を学び、品質保持のための管理方法や技術的な工夫について具体的な知見を得た。



(7)瀬戸内国際芸術祭

香川県三豊市に位置する栗島において、瀬戸内国際芸術祭の視察を行い、島内の 5 か所の展示エリアを訪問した。各エリアでは、現代アート作品の展示内容や制作背景について説明を受けるとともに、地域資源を活用した芸術祭の運営方法や観光振興への効果について理解を深めた。



(8)タラオセアンジャパンの取組説明

海洋環境保全と研究を目的として活動を展開している、タラオセアンジャパンのパトウイエ事務局長より取組の説明をお聞きした。当団体が、日本沿岸域におけるマイクロプラスチック汚染の実態を明らかにする調査や、セミナー、ビーチクリーン、科学体験イベントを通じて、海洋保全の重要性を広く発信しており、さらに、国内外の研究機関と連携し、得られた知見を政策決定者へ提供することで、海洋保全に関する行動を促進していること等を学んだ。

その後、栗島の海岸に移動し、砂浜に蓄積されたマイクロプラスチックを確認する簡易実験を行った。参加者は、調査および実験の説明に熱心に耳を傾け、海洋環境問題への理解を深める貴重な機会となった。



(9)意見交換会

セミナーの締めくくりとして、セミナー全体を通しての意見交換会を実施した。参加者から、三豊市の良いところ(強み)、悪いところ(弱み)、今後の課題、今後のチャンスになる点などについて、海外からの観光客の目線に立ち、忌憚のない意見が述べられた。

特に三豊市では、素晴らしい観光スポットが多数ある一方、外国語対応や知名度向上に課題があることがあげられた。フランスおよびベルギーでの事例を紹介しながら、活発な議論が行われた。



(10) 地元市民との交流(うどん作り体験、帰国前昼食会)

地方セミナー最終日、帰国前最後の食事の機会に、香川県の名物料理であるうどん作り体験を、地元住民から教わりながら行った。香川県は「うどん県」とも呼ばれるほど、うどん文化が根付いており、参加者は、その伝統的な製法を楽しみながら学んだ。体験後は、総勢 20 名で自ら打ったうどんを試食した。

本体験を通じて、地元ならではの食文化に触れるとともに、市民との親睦を図る貴重な機会となった。



《東京セミナー:1月 24 日(金)》

(1) 鎌倉視察

関東随一の観光地で、国内だけでなく外国人観光客からも人気が高い鎌倉を視察した。地方の観光地と首都圏近辺の観光地では全く雰囲気が違うため、参加者は三豊市とは違った雰囲気を感じた。また、日本独自の文化を体験してもらうため茶道・着物体験や、鎌倉大仏見学等を行った。

人の多さに驚くとともに、参加者からは一つの都市で本格的かつ日本を代表する文化を体験できることに、学びと素晴らしさを感じたとの意見が寄せられた。

